

新フェローの紹介

太田 敏澄 (おおた としずみ) 氏

昭和 22 年 7 月 7 日生れ

〔現住所〕東京都新宿区下落合

〔学歴〕昭和 52 年 東京工業大学大学院理工学研究科経営工学専攻博士課程修了 (工学博士)

〔職歴〕

昭和 52 年 東京工業大学大学院総合理工学研究科助手

昭和 58 年 豊橋技術科学大学工学部講師, 助教授を経て

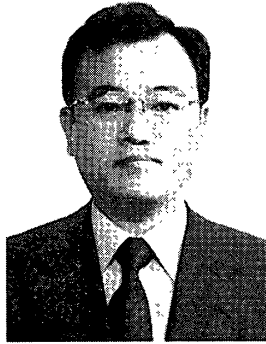
平成 5 年 電気通信大学大学院情報システム学研究科教授

この間, 米国ペンシルバニア大学ウォートン校客員研究員, スタンフォード大学客員研究員, 東京工業大学工学部併任講師, 立教大学大学院経済学研究科兼任講師

〔OR 学会関係〕研究普及委員 昭和 62~63 年度・平成 8~10 年度, OR 事典編集委員 平成 10~11 年度, 理事 (研究普及) 平成 11~12 年度, その他「経営組織」研究部会幹事, 「実施理論」研究部会幹事, 「OR/MS とシステム・マネジメント」研究部会幹事・主査等を歴任

〔著書等〕Creative and Innovative Approaches to the Science of Management (共著, Quorum, 1993), 社会情報システム学・序説 (共著, 富士通経営研修所, 1996), 経営科学 OR 用語大事典 (分担訳, 朝倉書店, 1999), 環境としての情報空間 (共著, アグネ承風社, 2002), 都市と環境の公共政策 (共著, 中央経済社, 2002), 社会の中の企業 (共著, 八千代出版, 2002), 査読付き論文 25 編, その他論文, 講演, 研究発表多数

太田氏は, 研究部会の幹事・主査として, 経営科学や情報技術の導入に関するシステム・マネジメントや組織知能の実施理論的解明に関する研究活動を支えてこられました。最近では, エージェントモデルによる社会的集約的現象のモデル化やシミュレーションによる



解明, 組織設計や組織知能工学におけるコンピューショナル組織理論の研究に従事され, 社会情報論や経営情報論分野への経営科学や OR の活用を図るなど幅広く活動されています。本学会においては, 研究普及委員として OR 企業サロンの開催, 研究普及理事として日本経営工学会との研究発表会同時開催などに尽力されるなど, 本学会の発展に貢献されています。

斎藤 洋 (さいとう ひろし) 氏

昭和 33 年 8 月 29 日生れ

〔現住所〕東京都日野市豊田

〔学歴〕昭和 58 年 東京大学大学院修士課程修了 (工学博士)

〔職歴〕

昭和 58 年 日本電信電話公社 (現 NTT) 入社

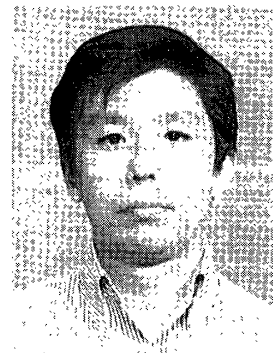
平成 6 年 日本電信電話(株)特別研究員

現在, 同社サービスインテグレーション基盤研究所主幹研究員

〔OR 学会関係〕第 26 回文献賞 平成 10 年度

〔著書等〕Teletraffic Technologies in ATM Networks (Artech House), 通信トラヒック理論の基礎とマルチメディア通信網 (共著, 電子情報通信学会), ATM フォーラムシリーズ トラヒックマネージメント仕様 4.0 (編・著・共訳, 電信電話技術委員会), 広帯域 ISDN と ATM 技術 (共著, 電子情報通信学会), 査読付学術雑誌論文約 60 編, 国際会議論文約 50 編

斎藤氏は, NTT においてトラヒックや需要予測などの研究開発にはじまり, 各種通信システムのトラヒック制御, 設計に広く関わられました。この間, 日本 OR 学会論文誌への投稿や研究発表会で発表をされ, それらの多くが実際にシステムとして実用化, あるいは国際標準の場で議論されています。平成 10 年には, 斎藤氏がわが国の第一人者として活躍した ATM と呼ばれる通信方式に適用可能なトラヒック設計・制御手法に関する論文で, 本学会文献賞を受賞されました。



田村 明久 (たむら あきひさ) 氏

昭和 36 年 5 月 2 日生れ

〔現住所〕京都市京都市左京区

〔学歴〕平成元年 東京工業大学大学院理工学研究科博士課程修了 (理学博士)

〔職歴〕

平成元年 東京工業大学理学部情報科学科助手

平成 5 年 電気通信大学電気通信学部情報工学科講師

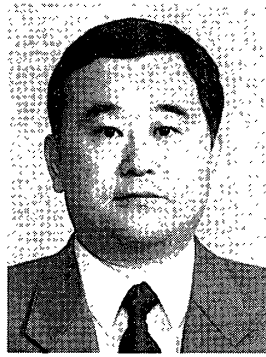
平成 6 年 同助教授

平成 11 年 京都大学数理解析研究所助教授

〔OR 学会関係〕第 26 回文献賞 平成 10 年度, 「確率モデルにおける最適化」研究部会幹事 平成 3~4 年度, 論文誌編集委員 平成 6~8 年度・平成 14 年度~現在, 機関誌編集委員 平成 9~12 年度, 「アルゴリズムと最適化」研究部会主査 平成 11~12 年度, 第 14 回 RAMP シンポジウム実行委員長 平成 14 年度

〔著書等〕離散構造とアルゴリズムIV (共著, 近代科学社, 1995), 離散構造とアルゴリズムVII (共著, 近代科学社, 2000), 最適化法 (共著, 共立出版, 2002), 応用数理計画ハンドブック (共編者, 朝倉書店, 2002), 査読付き学術論文 32 編, 講演・発表多数

田村氏は, 数理計画, その中でも特にマトロイドやグラフなどの離散的なものを研究テーマとし, これらの構造の解析や最適化問題に対する効率的な解法の研究をされてきました。近年は, 離散凸解析に関する研究を精力的に進められています。平成 10 年度にはパーフェクト双向グラフ上の一般化安定集合問題の研究が評価され, 第 26 回文献賞を受賞されました。本学会においては, 論文誌編集委員, 機関誌編集委員を歴任され, 研究部会やシンポジウムの企画をされるなど本学会の運営に貢献されています。



寺岡 義伸 (てらおか よしのぶ) 氏

昭和 18 年 4 月 15 日生れ

〔現住所〕兵庫県神崎郡市川町

〔学歴〕昭和 48 年 大阪大学大学院基礎工学研究科数理系専攻博士課程単位取得退学 (工学博士)

〔職歴〕

昭和 55 年 姫路工業大学助教授

平成元年 同教授

平成 4 年 大阪府立大学総合科学部教授

この間, テキサス大学ダラス校客員教授, インド統計研究所テリーセンター客員教授

〔OR 学会関係〕評議員 昭和 63 年度~平成元年度・平成 4~5 年度・平成 10~11 年度, 関西支部運営委員 昭和 63 年度~平成 10 年度, 関西支部副支部長 平成 11~12 年度, 関西支部長 平成 13~14 年度, 研究発表会実行副委員長 平成 11 年度・平成 14 年度, 第 6 回 RAMP セミナー実行委員長, 第 23 回 SSOR 実行委員長

〔著書等〕入門 OR セミナー (分担執筆, 現代数学社), 太平洋上セミナー 3 (分担執筆, 南窓社), 現代 OR 入門 (分担執筆, 現代数学社), 査読付き論文 40 編, その他論文, 解説, 学会発表多数

寺岡氏は, 姫路工業大学在職中はゲーム理論, 動的計画のオペレーションズ・リサーチへの応用に関する研究に精力を注がれ, 特に不確実性下におけるタイミングのゲームに関する一連の研究は海外において高く評価され, 現在でも東欧の学術誌に引用されています。大阪府立大学に移られてからは, 研究テーマも CAD を背景とした施設配置, ゲーム論的施設配置, 生産管理, 信頼性・保全性, 最適割当てとその枠を広げて若手研究者の育成に当たられるとともに, その成果を内外の雑誌に発表されています。本学会においては, 関西支部の中心的メンバーとして研究発表会, シンポジウム, セミナー, OR 企業フォーラム等の開催に尽力され, 本学会の発展に貢献されています。



中森真理雄 (なかもり まりお) 氏

昭和 23 年 10 月 21 日生れ

〔現住所〕東京都小金井市貫井南町

〔学歴〕昭和 52 年 東京大学大学院工学系研究科博士課程修了 (工学博士)

〔職歴〕

昭和 52 年 東京農工大学工学部数理情報工学科講師

昭和 54 年 同助教授

平成 3 年 同 (現情報コミュニケーション工学科) 教授

〔OR 学会関係〕IAOR 委員 昭和 56~59 年度, 研究普及委員 平成 8 年度, 理事 (研究普及) 平成 9~10 年度

〔著書等〕情報処理ハンドブック (共著, オーム社), データ構造と C プログラム (訳, 丸善), 他 8 冊, 論文 40 編, 研究発表多数

中森氏は, 数理計画法, ネットワークフロー理論, アルゴリズム理論等を主に研究され, 理論研究だけでなく, 企業と協力して生産現場への応用にも力を注いでおられます。最近では, 精密な光学機器システムにおけるレンズ調整や処理手順の最適スケジュール, 電子機器用基板への部品装着の最適順序付け, 鉄道の保線作業や車両編成作業における最適スケジュールなどに取り組み, OR の手法を活用して成果をあげておられます。また, 他学会においても OR 手法の啓蒙・普及に努められるとともに, 単なる情報機器の操作方法ではないサイエンスとしての情報教育, 問題のモデル化の教育 (OR 教育) が大切であることを各種会議で提言され, 氏の主張により, 高等学校で始まった「情報」の教育においても OR 的手法が取り上げられております。本学会においては, 委員, 理事, 研究発表会・シンポジウム実行委員等を歴任され, 本学会の運営に貢献されています。



成久 洋之 (なりひさ ひろゆき) 氏

昭和 9 年 11 月 4 日生れ

〔現住所〕岡山県岡山市学南町

〔学歴〕昭和 45 年 京都大学大学院博士課程数理工学専攻修了 (工学博士)

〔職歴〕

昭和 45 年 防衛庁研究員

昭和 48 年 防衛大学校非常勤講師兼務

昭和 50 年 防衛大学校助教授

昭和 55 年 岡山理科大学教授, 現在に至る

昭和 58 年~平成 6 年 同大学情報処理センター所長
〔OR 学会関係〕機関誌編集委員 昭和 48~49 年度・昭和 54~55 年度, 中国四国支部副支部長 平成 4~平成 15 年度, 評議員 平成 4~11 年度, 無任所理事 平成 12~13 年度, 平成 13 年度秋季研究発表会実行委員長

〔著書等〕著書 6 編, 論文 190 編 (査読付論文 100 編), 講演・研究発表多数

成久氏は, 整数計画法や大規模な線形計画問題に対する効率的解法等を中心とした研究に従事してこられ, 事象の数理的解析としてソフトウェアの信頼性を含むシステムの解析, および CASE (コンピュータ支援ソフトエンジニアリング) システムの開発や並列分散処理システムの開発等に取り組んでこられました。特に最近では人工知能の基本的ツールともなりうる遺伝的アルゴリズムを中心とした進化的計算法の開発や, ニューラルネットワークを使用した知的情報処理アルゴリズムを中心としたソフトコンピューティングの研究やデータマイニングと知識発見等の研究に興味を持たれ, AI と OR の真の融合を目指した研究を進めておられます。本学会においては, 長年にわたり中国四国支部副支部長として活動を支えてこられました。



平林 隆一 (ひらばやし りゅういち) 氏

昭和 25 年 8 月 5 日生れ

〔現住所〕埼玉県所沢市下富

〔学歴〕昭和 57 年 東京工業大学大学院理工学研究科経営工学専攻博士課程単位取得退学 (工学博士)

〔職歴〕

昭和 57 年 東京理科大学工学部経営工学科助手

平成 6 年 同教授

この間、アーヘン工科大学理学部数学科客員教授、フンボルト大学理学部数学科客員教授、埼玉大学非常勤講師、九州大学非常勤講師

〔OR 学会関係〕研究普及委員 昭和 58~60 年度、機関誌編集委員 昭和 63 年度、表彰委員 平成 13 年度~現在、第 5 回事例研究奨励賞 昭和 60 年度

〔著書等〕OR 事例集 (共著, 日科技連出版社, 1983), 情報システムハンドブック (共著, 培風館, 1989), Parametric Optimization and Related Topics (共編, Peter Lang, 2000), 査読付き論文 40 編, その他論文・解説・学会発表多数

平林氏は、パラメータを含む非線形計画問題の解の構造を微分位相幾何学的に解明する研究を精力的に行われ、国際的にも高く評価されております。また、海外の研究者と多くの共同研究をされるとともに、この分野の国際会議において各種委員や議長を歴任されております。現在は、計算代数を使った整数計画問題の解法の研究や、信号処理分野、特にフィルタ設計の分野に数理計画法を応用する研究をされています。本学会においては、各種委員を歴任され、本学会の発展に貢献されています。



前田 忠昭 (まえだ ただあき) 氏

昭和 21 年 2 月 11 日生れ

〔現住所〕神奈川県横浜市泉区緑園

〔学歴〕昭和 45 年 東京大学工学系大学院計数工学修士課程修了

〔職歴〕

昭和 45 年 東京ガス(株)入社

平成 12 年 同取締役エネルギー企画部長

平成 14 年 同常務執行役員, 現在に至る

〔OR 学会関係〕研究普及委員 平成 8 年度, 理事 (研究普及) 平成 9 年度, 評議員 平成 10~11 年度, 副会長 平成 12~13 年度, 代議員 平成 14 年度~現在, その他企業サロン企画委員等を歴任

〔著書等〕転機に立つエネルギー産業 (共著), エネルギー工学 (共著) 他, 講演多数

前田氏は、東京ガス入社以来長年ガス事業政策に従事され、この間、オンラインシステムの設計、社内での数値的問題解決方法の普及に寄与されました。また、最適エネルギーモデル、長期エネルギー予測モデル等を考案し国のエネルギー政策検討に貢献されてきました。さらにはコージェネレーション等の新エネルギーシステム普及のための規制緩和策を推進され、近年では自動検針システム、設備監視サービスの開発やガス事業全般にわたる研究開発業務をリードされるなど、産業界で幅広く活躍されています。本学会においては、理事、副会長、評議員、代議員を歴任されるとともに、企業事例交流会の立ち上げに携わる等本学会の運営、発展に貢献されています。



町原 文明 (まちはら ふみあき) 氏

昭和 23 年 10 月 9 日生れ

〔現住所〕埼玉県狭山市上広瀬

〔学歴〕昭和 49 年 早稲田大学大学院理工学研究科数学専攻修士課程修了 (理学博士)

〔職歴〕

昭和 49 年 日本電信電話公社 (現 NTT) 入社

平成 8 年 東京電機大学理工学部教授

この間、東京都立科学技術大学非常勤講師、法政大学工学部兼任講師、文部省統計数理研究所客員教授

〔OR 学会関係〕機関誌編集委員 昭和 63 年度～平



成 3 年度, 論文誌編集委員 平成 12 年度～現在, 「待ち行列」研究部会主査 平成 8～10 年度

〔著書等〕通信トラヒック理論とマルチメディア通信網 (共著, 電子情報通信学会, 1995), 査読付論文 40 編, その他論文, 解説, 講演多数

町原氏は、電電公社電気通信研究所以来、一貫して通信トラヒック理論の研究に従事され、あるマルコフ過程の過渡現象のスペクトル解析、初通過時間を用いた溢れ呼生起過程の解析、溢れ呼流の重畳、分割を簡明に表現する (複合) 相型マルコフ再生過程の提案など、国際的にみても早い時期に重要な成果をあげておられます。平成 8 年度より東京電機大学理工学部に移られ、研究活動を継続されるとともに若手研究者の指導に尽力されています。本学会においては、機関誌編集委員、論文誌編集委員、研究部会主査として活動を支えてられました。